

新鉄道会社を公募します

北海道ちほく高原鉄道は、4月20日、北海道運輸局に対し、ふるさと銀河線の廃止届を提出しました。これは 神田社長が銀河線の経営権を手放したことを意味します。6月25日の同社定時株主総会において、神田社長が「鉄道譲渡希望者が現れた場合は地元協議会の場に対応する」と答弁したのは当然ことで、新鉄道会社が設立された場合、ちほく鉄道は財産の有償・無償譲渡はともかく、経営権(鉄道事業免許)を譲ることになります。神田社長自身も「できることなら存続を願っている」と繰り返し述べていますから、新鉄道会社の出現は大歓迎のはずです。

国会で国交省は、「今後鉄道事業の許可申請者が出てきたなら、鉄道事業法の手続きが開始される」と答弁しています。(6/16 参議院農林水産委員会 紙智子議員質問)。

このように法的には、新鉄道会社設立または既存鉄道会社引き受けの意思表示があれば、銀河線は、来年4月以降も運行できます。

廃止届を出されてから再生された事例として、万葉線(富山県)、えちぜん鉄道(福井県)、北勢線(三重県)、貴志川線(和歌山県)の4例があります。廃止届を出されたからといって、諦めるのは早すぎます。

私たち「再生ネット」は、7月10日訓子府町で学習会を開き、これらの先行事例に学び、全国から運行会社を募集することにしました。貴志川線では、9社(者)から応募があり、最終的に和歌山電鉄(株)が設立されました。

世界自然遺産に登録されようとしている知床の足元で、世界のお客様を銀河線に乗せてみたい、と夢をお持ちの方、ぜひ応募してください。

応募先 ふるさと銀河線再生ネットワーク 事務局 中川 功

〒061-0004 北海道常呂郡留辺蘂町上町132-9 TEL・FAX0157-42-3769

新鉄道会社誘致のため

あなたも株主になってください

「世界の観光客を銀河線に乗せて、知床へ」の夢を実現させたいと考えた鉄道会社が出現したとしても、地元の住民が無関心では、誘致は成功しません。そこで私たち再生ネットは、新鉄道会社設立の話が持ち上がったとき、いつでもそれを力強く支えるため「ひと株」予約運動を起こすことを決めました。

銀河線を残したいと思ったださる全国のみなさん。1口5万円の株購入予約運動にぜひご協力くださるようお願いいたします。今回お願いするのは仮予約ですから、会社設立まではいつでも、変更・取り消しはできます。

申し込みは次のとおりです。

申込先 ふるさと銀河線再生ネットワーク 事務局 中川 功

〒061-0004 北海道常呂郡留辺蘂町上町132-9 TEL・FAX0157-42-3769

あなたも銀河線
再生ネットの会員になってください

大手私鉄の南海鉄道が廃止届を出した貴志川線では、会員 6000 人の「貴志川線の未来をつくる会」が組織され、この力で県や自治体・鉄道会社を動かし、和歌山電鉄(株)に運行を継続してもらうことが決まりました。もはや市民鉄道の時代です。

私たちの再生ネットは、まだ 170 人の会員です。ぜひあなたも加入していただけないでしょうか。また、お友達にもひと声かけていただけないでしょうか。

正会員の年会費は 3000 円ですが、2000 円の賛助会員制度もあります。学生会員は 1000 円です。

月に 1 回学習会を開くことにしているほか、全会員には「再生ネット」の資料をお届けしています。(申し込み方法は、HP 内にあります)

新たな争点で裁判を検討中

過日の学習会でも報告しましたが「再生ネット」は、6 月 23 日札幌の弁護士と銀河線裁判を協議しました。当方は 3 点の争点を用意しましたが、弁護士から、精査が必要と助言を受けました。今後、新たな争点を加える立場から研究するとともに、別の弁護士に依頼することも検討中です。合わせて、「再生ネット」が、北海道運輸局の「銀河線代替交通確保協議会」オブザーバーとして関与が可能となりましたので、出訴のタイミングを計っています。